

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
専門学校穴吹工科カレッジ		平成14年3月14日	岩澤 正俊	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	自動車整備学科(2年制)	平成16(2004)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	専門知識・技術とコミュニケーションを身につけ、自動車業界が求める要望に応え得る人材を確保する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	二級ガソリン自動車整備士資格 二級ジーゼル自動車整備士資格 二級二輪自動車整備士資格						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数時間、単位いづれかに記入	1,800 単位数時間	864 単位数時間	0 単位数時間	1,269 単位数時間	0 単位数時間
			単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)				
50人	27人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		10	人			
	■就職希望者数(D)		10	人			
	■就職者数(E)		10	人			
	■地元就職者数(F)		9	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		90	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	なし						
(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等							
(令和5年度卒業生)							
香川日野自動車㈱ 四国三菱ふそう販売㈱ 東四国スバル㈱ ㈱ホンダモビリティ中四国 ㈱ヤマウチ ㈱ホンダオート香川 京都トヨタ自動車㈱							
ボルシェセンター高松 TODA㈱ ㈱ドリームホンダ							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有の場合、例えば以下について任意記載						
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.anabuki-college.net/atk/">http://www.anabuki-college.net/atk/</a>						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数						2,133 単位時間
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						12 単位時間
	うち企業等と連携した演習の授業時数						0 単位時間
	うち必修授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						0 単位時間
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						0 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						35 単位時間
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数						単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した演習の授業時数						単位
	うち必修授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						単位
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			3人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			0人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			3人	
	計					6人	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					6人		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備士2級の取得を第一の目標とし、また自動車業界で必要とされる新しい技術・顧客意識に対応した人材を輩出することを目標にカリキュラムを編成している。学年末に、企業や外部からの講師とカリキュラム・科目の内容・学科の検定スケジュール等について学科ごとの個別会議をもち、意見交換をしたのち次年度授業内容を確定することを繰り返している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月2日現在

名前	所属	任期	種別
植田 隼矢	一般社団法人香川県自動車整備振興会 教育課	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
野崎 敬三	野崎自動車株式会社 代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
新家 勇司	東四国スバル株式会社 サービス課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
猪熊 伸彦	香川県立坂出工業高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	②
横手 章人	専門学校穴吹工科カレッジ保護者会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
岩澤 正俊	専門学校穴吹工科カレッジ校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
大門 剛	専門学校穴吹工科カレッジ副校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
玉川 峰文	専門学校穴吹工科カレッジ教務課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年1月29日 19:00～20:30

第2回 令和6年3月29日 19:00～20:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新機構について、今後も企業側との実施計画を行い、最新の技術研修及び独特な装備についての研修もお願いし、学校側の指導レベルを高めることで企業側の理解を継続していきたい。

また、オープンキャンパスや実習講師として授業に卒業生が参加することで、技術的なことと職業研究の課題とした教育をすることにより職業選択のミスマッチをなくす役割として考えたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

① インターンシップを基とする職場体験を実施し、整備の仕事及び現場を理解する。

② 整備工場での整備作業を指導員の下、実施し、就職するに当たっての技術及び知識、コミュニケーション能力を現場から学ぶ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

すべての学生がインターンシップを経験できるよう、企業と学生のマッチングを図る。

学生にとって効果的なものになるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。

インターンシップ後の企業からの評価をもとに、期末に学科教員がインターンシップ評価（就職実務）を行う。学生の就労意識・顧客意識の向上を図り、就職の指導にもつなげる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
一般教養・就職実務 (インターンシップ)	連携企業の整備の現場において、実習指導員の指示に従い、車両整備作業及び補助を実施する。	株式会社ホンダモビリティ中四国、

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規定に従い、教職員の業務経験や能力に応じて実施する。

常に発展と変化を繰り返す自動車関連業界が必要とする学生を送り出すための授業知識・技能を修得するために、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。

また、退学防止のための指導者研修などにも積極的に参加することで教員としての資質の向上を図っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 整備主任者研修	連携企業等: 香川県自動車整備振興会
期間: 令和6年6月19日	対象: 整備主任者20名
内容: 電子制御装置の故障探究について	
研修名: 新機構研修会	連携企業等: 第一種自動車整備士養成施設
期間: 令和6年8月8日～9日	対象: 各校教員
内容: カーボンニュートラルについて、仮装車両工場見学	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ICT活用研修	連携企業等: イーディーエル株式会社
期間: 令和6年4月3日	対象: 教職員
内容: GoogleドライブおよびGoogleClassroomの活用について	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 自動車整備用工具取り扱いについて	連携企業等: 京都機械工具株式会社
期間: 令和6年9月6日	対象: 教員及び学生
内容: 工具・機器類の取り扱いおよび注意事項について	
研修名: ロードサービスについて	連携企業等: 日本自動車連盟
期間: 令和6年10月3日	対象: 教員及び学生
内容: 故障事例およびロードサービスの作業方法について	
研修名: 新機構研修会	連携企業等: 東四国スバル株式会社
期間: 令和6年11月5日	対象: 教員及び学生
内容: 電子制御装置新技術、衝突安全装置	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: コンプライアンス研修	連携企業等: 講師招聘による内部研修
期間: 令和6年9月中旬	対象: 教員
内容: ハラスメントについて	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	



5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

継続的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

・教育に関わる情報について、原則、公開するし、定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める

・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <http://www/anabuki-college.net/information/info.php>

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法				場所			企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	
1	○			自動車工学概論	自動車の基本的な構造・性能、力学、数学、材料、図面、燃料・油脂について習得する。	1前	54	○				○	○		
2	○			自動車工学概論	自動車の基本的な構造・性能、力学、数学、材料、図面、燃料・油脂について習得する。	1後	54	○				○	○		
3	○			エンジン構造Ⅰ	ガソリン及びディーゼルエンジンの構造・機能及び各部の役割について習得する。	1前	27	○				○	○		
4	○			エンジン構造Ⅰ	ガソリン及びディーゼルエンジンの構造・機能及び各部の役割について習得する。	1後	54	○				○	○		
5	○			エンジン構造Ⅱ	ガソリン及びディーゼルエンジンの構造・機能及び各部の役割について習得する。	2前	27	○				○	○		
6	○			シャシ構造Ⅰ	動力伝達装置、懸架装置、舵取り装置に関する構造・機能・役割について習得する。	1前	27	○				○	○		
7	○			シャシ構造Ⅰ	動力伝達装置、懸架装置、舵取り装置に関する構造・機能・役割について習得する。	1後	27	○				○	○		
8	○			シャシ構造Ⅱ	ブレーキ装置、ホイール及びタイヤ、フレームとボデー、自動車の性能に関する機能・役割について習得する。	2前	27	○				○	○		
9	○			シャシ構造Ⅱ	ブレーキ装置、ホイール及びタイヤ、フレームとボデー、自動車の性能に関する機能・役割について習得する。	2後	27	○				○	○		
10	○			電装品構造Ⅰ	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	1前	27	○				○	○		
11	○			電装品構造Ⅰ	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	1後	27	○				○	○		
12	○			電装品構造Ⅱ	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	2前	27	○				○	○		
13	○			電装品構造Ⅱ	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	2後	27	○				○	○		
14	○			自動車の故障と探究	自動車の故障を修理するための知識や手順を学び故障探究技術を習得する。	2前	27	○				○	○		
15	○			自動車の故障と探究	自動車の故障を修理するための知識や手順を学び故障探究技術を習得する。	2後	27	○				○	○		
16	○			自動車整備Ⅰ	エンジンに関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	1前	27	○				○	○		
17	○			自動車整備Ⅰ	エンジンに関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	1後	27	○				○	○		
18	○			自動車整備Ⅱ	エンジンに関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	2前	27	○				○	○		
19	○			自動車整備Ⅱ	シャシに関する整備作業の方法を事前に学び、シャシに関する整備作業の事前知識を習得する。	2後	27	○				○	○		
20	○			自動車整備Ⅲ	電装品に関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	1後	27	○				○	○		
21	○			自動車整備Ⅳ	自動車の故障探究に関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	2前	27	○				○	○		
22	○			自動車整備Ⅳ	自動車の故障探究に関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	2後	27	○				○	○		
23	○			自動車工具・機器	自動車整備に関する工具及び機器の名称とその使用方法を習得する。	1前	54	○				○	○		
24	○			自動車検査	保安基準適合性確保の点検方法について学び、自動車検査合格基準について習得する。	2後	27	○				○	○		
25	○			法令	道路運送車両法及び保安基準を学び、自動車の法令に関する知識を習得する。	2前	27	○				○	○		
26	○			一般教養・就職実務	就職に関する知識を学ぶと共に、インターンシップにより、実際の現場を体験し、整備工場での仕事を理解し習得する。	1後	27	○			△	○	○		○
27	○			検定対策（ガソリン・ディーゼル）	二級自動車整備士資格試験に向けての学科試験対策を行い、合格ラインを全員が超えることを目標とする。	2後	54	○				○	○		





職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校穴吹工科カレッジ		平成14年3月14日	岩澤 正俊	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1丁目22番23号 (電話) 087-823-2266				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	自動車整備学科(3年制)	平成28(2016)年度	-	平成29(2017)年度			
学科の目的	専門知識・技術とコミュニケーションを身につけ、自動車業界が求める要望に応え得る人材を確保する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	二級ガソリン自動車整備士資格 二級ジーゼル自動車整備士資格 二級二輪自動車整備士資格							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入 1,800 単位時間 単位	864 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,269 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
150人	80人	79人	99%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		46	人				
	■就職希望者数(D)		45	人				
	■就職者数(E)		45	人				
	■地元就職者数(F)		12	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		27	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		98	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	帰国		(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)					
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) ㈱ネクステージ いすゞ自動車近畿㈱ ヤマトオートワークス四国㈱ 愛知スズキ販売㈱ エフエルシー㈱ ㈱日産サティオ埼玉 ㈱ヤマウチ 香川トヨタ自動車㈱						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.anabuki-college.net/atk/">http://www.anabuki-college.net/atk/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		2,133 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		12 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		35 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		3人					
	計		6人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		6人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備士2級の取得を第一の目標とし、また自動車業界で必要とされる新しい技術・顧客意識に対応した人材を輩出することを目標にカリキュラムを編成している。学年末に、企業や外部からの講師とカリキュラム・科目の内容・学科の検定スケジュール等について学科ごとの個別会議をもち、意見交換をしたのち次年度授業内容を確定することを繰り返している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月2日現在

名前	所属	任期	種別
植田 隼矢	一般社団法人香川県自動車整備振興会 教育課	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
野崎 敬三	野崎自動車株式会社 代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
新家 勇司	東四国スバル株式会社 サービス課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
猪熊 伸彦	香川県立坂出工業高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	②
横手 章人	専門学校穴吹工科カレッジ保護者会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
岩澤 正俊	専門学校穴吹工科カレッジ校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
大門 剛	専門学校穴吹工科カレッジ副校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
玉川 峰文	専門学校穴吹工科カレッジ教務課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年1月29日 19:00～20:30

第2回 令和6年3月29日 19:00～20:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新機構について、今後も企業側との実施計画を行い、最新の技術研修及び独特な装備についての研修もお願いし、学校側の指導レベルを高めることで企業側の理解を継続していきたい。

また、オープンキャンパスや実習講師として授業に卒業生が参加することで、技術的なことと職業研究の課題とした教育をすることにより職業選択のミスマッチをなくす役割として考えたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

① インターンシップを基とする職場体験を実施し、整備の仕事及び現場を理解する。

② 整備工場での整備作業を指導員の下、実施し、就職するに当たっての技術及び知識、コミュニケーション能力を現場から学ぶ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

すべての学生がインターンシップを経験できるよう、企業と学生のマッチングを図る。

学生にとって効果的なものになるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。

インターンシップ後の企業からの評価をもとに、期末に学科教員がインターンシップ評価（就職実務）を行う。学生の就労意識・顧客意識の向上を図り、就職の指導にもつなげる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
一般教養・就職実務 (インターンシップ)	連携企業の整備の現場において、実習指導員の指示に従い、車両整備作業及び補助を実施する。	株式会社ホンダモビリティ中四国、

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規定に従い、教職員の業務経験や能力に応じて実施する。

常に発展と変化を繰り返す自動車関連業界が必要とする学生を送り出すための授業知識・技能を修得するために、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。

また、退学防止のための指導者研修などにも積極的に参加することで教員としての資質の向上を図っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 整備主任者研修	連携企業等: 香川県自動車整備振興会
期間: 令和6年6月19日	対象: 整備主任者20名
内容: 電子制御装置の故障探究について	
研修名: 新機構研修会	連携企業等: 第一種自動車整備士養成施設
期間: 令和6年8月8日～9日	対象: 各校教員
内容: カーボンニュートラルについて、仮装車両工場見学	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ICT活用研修	連携企業等: イーディーエル株式会社
期間: 令和6年4月3日	対象: 教職員
内容: GoogleドライブおよびGoogleClassroomの活用について	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 自動車整備用工具取り扱いについて	連携企業等: 京都機械工具株式会社
期間: 令和6年9月6日	対象: 教員及び学生
内容: 工具・機器類の取り扱いおよび注意事項について	
研修名: ロードサービスについて	連携企業等: 日本自動車連盟
期間: 令和6年10月3日	対象: 教員及び学生
内容: 故障事例およびロードサービスの作業方法について	
研修名: 新機構研修会	連携企業等: 東四国スバル株式会社
期間: 令和6年11月5日	対象: 教員及び学生
内容: 電子制御装置新技術、衝突安全装置	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: コンプライアンス研修	連携企業等: 講師招聘による内部研修
期間: 令和6年9月中旬	対象: 教員
内容: ハラスメントについて	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	
研修名: -	連携企業等: -
期間: -	対象: -
内容: -	



5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

継続的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

・教育に関わる情報について、原則、公開するし、定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める

・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <http://www/anabuki-college.net/information/info.php>

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	専任		兼任
1	○			自動車工学概論A	自動車の基本的な構造・性能、力学、数学、材料、図面、燃料・油脂について習得する。	1	54	○				○		○			
2	○			自動車工学概論B	自動車の基本的な構造・性能、力学、数学、材料、図面、燃料・油脂について習得する。	3	54	○				○		○			
3	○			エンジン構造A	ガソリン及びディーゼルエンジンの構造・機能及び各部の役割について習得する。	1	54	○				○		○			
4	○			エンジン構造B	ガソリン及びディーゼルエンジンの構造・機能及び各部の役割について習得する。	2	54	○				○		○			
5	○			シャシ構造I	動力伝達装置、懸架装置、舵取り装置に関する構造・機能・役割について習得する。	1	54	○				○		○			
6	○			シャシ構造II	ブレーキ装置、ホイール及びタイヤ、フレームとボデー、自動車の性能に関する機能・役割について習得する。	2	54	○				○		○			
7	○			電装品構造A	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	1	27					○		○			
8	○			電装品構造B	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	2	54	○				○		○			
9	○			電装品構造C	電気・電子の基礎知識及び自動車の電装品の基礎知識を習得する。	3	27	○				○		○			
10	○			自動車の故障と探究	自動車の故障を修理するための知識や手順を学び故障探究技術を習得する。	3	54	○				○		○			
11	○			自動車整備A	エンジンに関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	1	54	○				○		○			
12	○			自動車整備B	エンジンに関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	2	27	○				○		○			
13	○			自動車整備C	シャシに関する整備作業の方法を事前に学び、シャシに関する整備作業の事前知識を習得する。	3	27	○				○		○			
14	○			自動車整備D	電装品に関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	2	54	○				○		○			
15	○			自動車整備E	自動車の故障探究に関する整備作業の方法を事前に学び、エンジンに関する整備作業の事前知識を習得する。	3	27	○				○		○			
16	○			自動車工具・機器	自動車整備に関する工具及び機器の名称とその使用方法を習得する。	1	54	○				○		○			
17	○			自動車検査	保安基準適合性確保の点検方法について学び、自動車検査合格基準について習得する。	3	27	○				○		○			
18	○			法令	道路運送車両法及び保安基準を学び、自動車の法令に関する知識を習得する。	3	27	○				○		○			
19	○			一般教養・就職実務	就職に関する知識を学ぶと共に、インターンシップにより、実際の現場を体験し、整備工場での仕事を理解し習得する。	2	27	○		△		○		○		○	
20	○			検定対策（ガソリン・ディーゼル）	二級自動車整備士資格試験に向けての学科試験対策を行い、合格ラインを全員が超えることを目標とする。	3	54	○				○		○			
21	○			エンジン整備実習A	エンジン関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	1	##	○				○		○			
22	○			エンジン整備実習B	エンジン関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	2	81	○				○		○			○
23	○			エンジン整備実習C	エンジン関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	3	81	○				○		○			
24	○			シャシ整備実習A	シャシ関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	1	81	○				○		○			
25	○			シャシ整備実習B	シャシ関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	2	##	○				○		○			○
26	○			シャシ整備実習C	シャシ関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	3	81	○				○		○			
27	○			電装整備実習A	電装関係の点検・整備方法の基礎から応用までを実習機材及び実車をしようして技術を習得し、各整備に必要な工具・機器類の使用法を習得する。	1	81	○				○		○			



